

# 日本認知症ケア学会2013/2014年度 北陸・甲信越地域大会開催報告

著者	大淵 律子
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌 = Saku University journal of nursing
巻	7
号	1
ページ	81-84
発行年	2015-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1050/00000155/">http://id.nii.ac.jp/1050/00000155/</a>



活動報告

# 日本認知症ケア学会 2013/2014年度 北陸・甲信越地域大会 開催報告

The Hokuriku-Koushinetsu Regional Forum 2013/2014  
The Japanese Society for Dementia Care

大淵 律子

Ritsuko Obuchi

キーワード：認知症ケア

Key words : Dementia Care

日本認知症ケア学会は、全国に11の地域部会を持ち、各地方において、認知症に対する優れた学識と高度な技能および倫理観を備えた専門技術士を養成し、わが国における認知症ケア技術の向上ならびに保健福祉に貢献することを目的とした活動を実施しています。

北陸・甲信越地域部会は、新潟・富山・石川・福井・山梨・長野の6県から構成されており、それぞれの地域部会が中心となって、年1回の地域大会を開催することになっています。もちろん、年1回の日本認知症ケア学会の全国大会も開催しながらの地域大会開催の目的は、認知症ケア学会員や認知症ケア専門士がそれぞれに身近な場所でより主体的に認知症ケアに関する研鑽を積んで行ける機会をそれぞれの地域部会で作ることにあります。

認知症ケア専門士の増加に合わせて全国的な組織編制があり、新体制での北陸・甲信越地域大会を2013年10月6日(日)に第1回目を、2014年10月5日(日)に第2回目を、JA長野県ビルで開催致しました。大会テーマは、

2013年度は、「認知症の地域ケア—その人が安心して暮らせるために—」とし、2014年度は、「認知症の人と家族を支える地域力を育むために」としました。

これらのテーマの背景としては、長野県で開催する地域大会であるため、長野県の特徴が出せるものでありたいこと、特に地域医療の歴史ある発展を遂げてきた佐久地域の実践活動の過程とそこでの地域ケアシステムの在り方を共有できること、さらに国を挙げての認知症ケアの地域包括ケア展開の必要性の高まりも視野にいれてのことです。それぞれの地域特性が生かされるケアの現場での効果的な実践内容や今後の課題を焦点化し、実践現場の特徴を踏まえてさらなる発展を期待してのことです。認知症ケアは、保健医療福祉の総合ケアであり、認知症ケアの基本的理念は、ケアの現場に浸透してきている感がある一方で、それぞれのケアの場における認知症ケアの質に関わる基本的な課題があることも見逃せません。そのため、どのようなケアの場に

受付日2015年2月9日 受理日2015年2月10日  
佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

においても認知症の人とその家族が常に人としての尊厳を保ち、その人の望む生活が継続できるための地域のケア体制とケアを支える人材育成が欠かせないことと考えます。そのような意味からしてもはじめての長野での本地域大会の開催には意義があったと思います。

そして、何よりも佐久地域の身近なところで大会テーマに合わせた演者の方々の御協力が得られやすかったことを有難く感じました。これは、日ごろからのケアの実績があるからこそと強く感じた次第です。実践していることをありのままに発表していただくことができたことで、他県からの参加者の方々からも地域大会の講演内容が質の高いものであったと賞賛の声が多かったことが印象的でした。

## I. 2013年度北陸・甲信越地域大会の概要

### 特別講演 I

認知症の予防と医療

今井幸充(医療法人社団翠会和光病院)

### 特別講演 II

佐久総合病院の地域医療への取り組み

北澤彰浩(JA長野厚生連佐久総合病院  
小海分院)

### 特別企画

佐久市の取り組み—地域で取り組む認知症—

波間春代(佐久市役所高齢者福祉課)

認知症の相談を受けて

神津公子(佐久市役所高齢者福祉課認知  
症地域支援推進員)

### 特別講演 III

認知症の取材、認知症の母から思うこと

飯島裕一(信濃毎日新聞社編集員)

### 特別講演 IV

ふつうの暮らしが明日の元気につながるように……

倉田雅恵(宅老所あったかいご)

シンポジウム：認知症ケアに関わる人材育成  
座長 大淵律子(佐久大学)

・認知症と共に生きる当事者に視点をおいた人材育成

櫻井記子(社会福祉法人ジェイエー長野会  
特別養護老人ホームローマンうえだ)

・認知症ケアに関わる人をどう育むか？

堀内園子(グループホームせせらぎ)

・町中の人々が支援者になるために

高橋妙子(佐久穂町地域包括支援センター)

・高齢者福祉施設での人材育成の留意点

宮島 渡(社会福祉法人敬仁福祉協会高  
齢者総合福祉施設アザレアンさなだ)

2013年度北陸・甲信越地域大会を終えてとして次のように総括しました。2013年10月6日(日)に、JA長野県ビルにおいて、「認知症の地域ケア —その人が安心して暮らせるために—」と題して第1回目の北陸・甲信越地域大会を開催しました。参加者は、319名、演題数は9題でしたが、関係の皆様のご協力・ご支援をいただき、地域特性を踏まえた意義のある大会になったのではないかと考えます。

長寿日本一の長野県における予防に重点をおいた地域の自主的な健康づくり活動の推進を背景として、特別講演は、認知症の予防と医療、佐久総合病院の地域医療への取り組み、佐久市における認知症の地域ケアの取り組み、信濃毎日新聞社の認知症の取材からみえた長寿社会の現状、ふつうの暮らしが、明日の元気につながるようにと題した宅老所のケアなど各演者から実践を踏まえて示唆に富んだ熱意あふれる講演をしていただきました。シンポジウムは、認知症ケアに関わる人材育成と題して特別養護老人ホーム、グループホーム、地域包括支援センター、高齢者総合福祉施設での人材育成の実践について話題提供していただき、地域に根ざしたよりよい認知症ケアのあり方について具体的に考え、ケアチーム

として成長することを共に考えるよい機会になったのではないかと考えます。今回の地域大会を第一歩として、次回の地域大会へと繋げていきたいと考えます。

## Ⅱ. 2014年度北陸・甲信越地域大会の概要

大会長講演：認知症ケアにおける地域力とは  
大淵律子(佐久大学)

認知症ケアにおける地域力とは、住民全体で認知症に対する十分な理解と認知症ケアにおける倫理的視点を養い、住民と行政、保健医療福祉に関わる職種、地域にある社会資源が一体となって、認知症ケアを地域全体で担っていけることであると考えます。それには、地域特性に合わせた認知症の介護予防事業の推進が基盤となり、認知症の早期発見と早期対応が十分にできるケアシステムを住民参加で構築する必要があります。MCIや軽度認知症の人にとって望ましい環境を積極的に整えること、認知症の人の医療体制が整うこと、認知症の人の入院・入所などに伴い質の高いケアを提供できる人材があること、家族介護者の心身にわたる介護負担の軽減が地域の身近な対応としてできること、地域のケアシステムにおける職種間の連携でケアの継続が切れ目なく、身近な生活の場で得られることである。認知症ケアの地域力を高めることは、誰もが人として安心して自分らしく生活できるための地域づくりの基盤となる重要な資源となる。

### 特別講演 I

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるための取り組み

柳澤悦子(社会福祉法人御代田町社会福祉協議会)

御代田町社会福祉協議会では、介護保険が始まる前より、認知症や障害があっても住み

慣れた地域で暮らし続けられるために、地域住民の方々と協働しながら、個別のニーズに添っていろいろな取り組みを行ってきている。E型デイサービス、宅老所、グループホームの開設、高齢者SOSネットワークの構築から、徘徊しても安心な地域づくりに取り組んでおり、今後も地域への情報の発信や理解を深めていけるよう、「認知症でもだいじょうぶ」な地域づくりをすすめていきたい。

### 特別講演 II

認知症ケアを支える法制度

山田啓顕(山田啓顕法律事務所)

認知症の人の認知機能や生活背景に合わせて成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用による適切な生活支援ができれば、認知症ケアの質の向上に繋がる可能性がある。成年後見人と行政・医療・福祉の連携によって認知症高齢者のケアの向上につながる可能性を見出していきたい。

シンポジウム：認知症ケアにおける家族支援  
座長 堀内ふき(佐久大学)

・日本農業新聞記者の取材から見た家族の実態

安藤まゆ子(日本農業新聞社営農生活部)

三世代・四世代が同居する農家の暮らしには、老いを自然と受け入れる態勢ができていること、地縁の強さから見守る目がたくさんあることなど、農村の懐深さを発見した。

・訪問看護における家族支援の実際—思いに寄り添うケアを目指して—

更級さおり(JA長野厚生連佐久総合病院  
訪問看護ステーションひらね)

「老老介護」「認認介護」が増加する中、ステーション利用者の約3割の方が認知症を合併しており、様々なサービスを利用しながら在宅で過ごしている。地域に根差した訪問看護ステーションとして「まちの保

健室」を併設し、訪問看護利用者だけでなく、地域の人々の様々な相談や健康に関する情報を発信し、地域で誰もが安心できる場所として事業を展開している。

・調査から見える家族の思い

水上幸夫(公益社団法人石川勤労者医療協会おたっしゅホーム城北)

小規模多機能型居宅介護事業所を利用する家族の個別の思いを知り、「ここが家、最後まで居たい」のこたばを大切にできるための家族支援のあり方を模索したい。

・高齢者家族の世帯構造の変化に応じた特別養護老人ホームでの家族支援

金井正子(社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホームローマンうえだ)

特別養護老人ホームは、人生の最終章を支える施設とも言われており、家族は、本人を共に支える重要な存在であり、家族としての役割が発揮出来るような支援が重要である。それは、入所者と家族の繋がりへの再構築であり、本人の代弁者としての役割、家族自身のケアを地域連携の視点ですすすることである。

2014年度北陸・甲信越地域大会を終えてとして、次のように総括しました。

2014年10月5日(日)にJA長野県ビルにおいて「認知症の人と家族を支える地域力を育むために」の大会テーマで第2回目の北陸・甲信越地域大会を開催しました。

参加者は、243名、発表演題は4題の大会でしたが、その分全員参加型の大会になりました。「認知症ケアにおける地域力とは」という基調講演に引き続き、演題発表をしたことで参加者全員での意見が飛び交う場となりました。特別講演には「誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるための取り組み」について社会福祉協議会での認知症ケアの実践例を

話していただき、「認知症ケアを支える法制度」について、地域で認知症ケアの法律相談に関わる弁護士の方から事例を踏まえて講演していただきました。シンポジウムは、認知症ケアにおける家族支援と題して、新聞記者の取材から見えた家族の実態、訪問看護における家族支援の実際、小規模多機能型居宅介護事業所の調査から見える家族の思い、世帯構造の変化に応じた特別養護老人ホームでの家族支援について等、多角的な視点での家族支援の在り方について活発な討論の場になり、地域大会の特徴が出せたのではないかと思います。

今回、日本認知症ケア学会北陸・甲信越地域大会を2013年、2014年と長野県で2回開催する機会に恵まれ、長野県、特に佐久地域における認知症ケアへの先進的取り組みを身近に感じられたことは、今後さらなる総合的な認知症ケアの質向上への発展へと繋がるだろうことを確信できるものとなりました。

地域大会開催には、北陸・甲信越地域部会メンバーの皆様の日頃からの御協力があったることと感謝しております。

また、佐久大学におきましては、2013年度に佐久市役所と繋げていただきました宮地文子副学長、2回の地域大会開催において実質的な御協力と御支援をいただきました堀内ふき看護学部長、2014年度の講演者を御紹介いただきました盛岡正博佐久学園理事長に感謝申し上げます。

## 資料

一般社団法人日本認知症ケア学会 2013年度 北陸・甲信越地域大会 抄録集

一般社団法人日本認知症ケア学会 2014年度 北陸・甲信越地域大会 抄録集